



「令和の日本型学校教育」美谷本小バージョン2025を目指して

～全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現～

1 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

- 社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
- 先行き不透明な「予測困難な時代」(アフターコロナ)

新学習指導要領の着実な実施



ICTの活用

一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

2 必要な改革を躊躇なく進めることで、「令和の日本型学校教育」美谷本小バージョンを創出

創造性・学ぶ主体性・
問題発見力・寛容性

働き方改革の推進

NEXT GIGA実現

学習指導要領の
着実な実施

フロントランナーとして、開拓・挑戦

3 実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

①個別最適な学び

一人一台端末のフル活用

②協働的な学び

指導の個別化

- 支援が必要な子供に重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現
- 特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定

学習の個性化

- 子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する

- 探究的な学習、体験活動等を通じ、子供同士であるいは多様な他者と協働しながら学ぶことができる外部人材などの招聘、オンライン参加
- 一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出す工夫

- スマイルネクストドリル、ドリルパーク等のAI型ドリルの活用
- 学習履歴(スタディログ)をe-ポートフォリオで蓄積
- Google Classroomの活用
- Canva, Padlet, Kahoot!等の活用

- 「みやもと学びの日」「みやもと学びの日DX」の推進
- 子供一人一人の問題発見を重視
- 子供を信じて、任せる指導
- Google Classroomの活用
- 「みやもと非同期の学び」づくり推進

- 教科等横断的な学びの推進(PBL・STEAM)
- 産官学<外部人材>(有識者、学校応援団等)の招聘、オンライン参加
- 思考ツール(ロイロノート、ミライシード等)の活用
- リアルな体験重視とICTによる相互記録
- 同一学年・学級・異学年間の学びやICT活用による空間的・時間的制約を超えた他の学校の子供等との学び合いづくり
- 「みやもと非同期の学び」づくり推進